

オジロワシ

Haliaeetus albicilla albicilla (Linnaeus)

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 大部分の個体群で個体数が減少

【形態】 全長約85cm、翼を広げると230cmに達する。トビよりかなり大きい。体は全体的に褐色で、頭頸部は淡褐色。体の下方になるほど黒味を増す。尾は短く、くさび形をなし白い。幼鳥の尾は褐色に白斑を混じ、成長するにつれて白色部が多くなる。嘴と足は黄色だがオオワシより黄色みが少ない。飛ぶときは翼の前縁がほぼ一直線をなし、後縁も一直線で板のように見える。ゆっくりとした羽ばたきと滑翔をまじえて飛び、高空で輪を描くこともある。

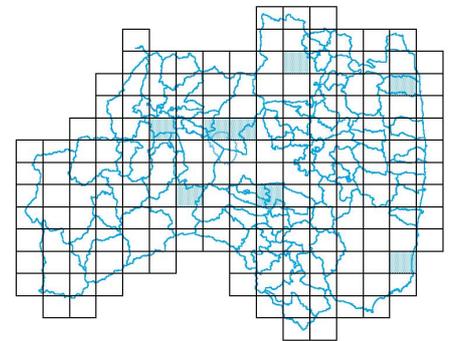
【分布】 ユーラシア大陸の北部、一部は北海道の東部で繁殖し、冬期は主に日本の北部に飛来する。

【県内の分布、生息状況】 冬期主に浜通りの海岸で見られるが、数は少ない。湖沼の多い地域にも飛来し、猪苗代湖、阿武隈川流域で観察されることがある。主に魚を餌とするが、水鳥類を捕食することもある。阿武隈川では大きなニゴイを急降下して捕まえ、近辺の山林で捕食していた。

【生息に影響を与えている要因】 生息環境の改変 餌となる魚類の減少

【主要文献】

日本野鳥の会会津支部(2000)会津のワシとタカ．歴史春秋出版．



オオワシ

Haliaeetus pelagicus pelagicus Pallas

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 大部分の個体群で個体数が減少

【形態】 体長雄88cm、雌102cm。翼開長220～240cmで日本最大のワシ。嘴が大きく黄色で尾はくさび型で白く、他のワシと区別しやすい。海岸や河口、湖沼を生活圏とし、主に大型魚を捕食、水鳥や中形の哺乳類を襲うなど、オジロワシの習性に良く似ているが、形態は腰と翼前縁が白く、飛翔中、翼後縁の膨らみや大きな嘴などで見まわがうことはない。夏、アムール川流域からカムチャッカ半島一帯の樹冠に営巣し2羽の雛を育てる。

【分布】 冬期間主に北海道オホーツク沿岸、稀に日本海沿岸や大平洋沿岸の北部で観察される。

【県内の分布、生息状況】 いわきの河口や沿岸で観察出来る。郡山市でも観察出来るがその報告は減少している。

【生息に影響を与えている要因】 餌となる水産資源の減少等がオオワシの減少につながった。

【主要文献】

山形則男(1996)羅白のオオワシ．BIRDER 2．

